

近年、棚田との密接な関連をもつて里山の重要性が指摘されるようになってきた。

人類が森を大切にしなければ生きていけないことは十分認識されるようになったが、日本では中世の時代よりそれを村単位で考え、里山の利用と再生を念頭に置いて、一年間の生活サイクルが伝統的に営まれてきた。

最近、里山保全の動きは多くの地域で活発になり、関心も非常に高まっている中、大都市東京でも、行政が用地を買収し、水田耕作をも含めた里山の保存・活用の試みが始まっている。

今回のシンポジウムでは、「里山と棚田を守る－歴史・論理・実践」と題して、この分野の第一戦で活躍する方をお招きし、講演とパネルディスカッションを行い、その歴史的背景と現代的課題を明らかにする。



水野 章二 (みずの しょうじ)

1954年名古屋市に生まれる。京都大学文学部・大学院文学研究科修了後、滋賀県立短期大学を経て、滋賀県立大学人間文化学部助教授・教授。中世村落・荘園の実態研究を進めてきたが、近年は中世の地域史および環境史・災害史に取り組んでいる。特に琵琶湖周辺地域の湖辺・水田・山野などの歴史的変遷に関心を寄せている。主な著書は『日本中世の村落と荘園制』（校倉書房、2000年）、『中世の人と自然の関係史』（吉川弘文館、2009年）など。



内山 節 (うちやま たかし)

1950年東京都に生まれる。都立新宿高校卒。群馬県上野村在住。NPO法人森づくりフォーラム代表理事。主な著書は『自然と人間の哲学』（岩波書店、1988年）、『山里紀行』（日本経済評論社、1990年）、『「里」という思想』（新潮社、2005年）など。山里に居住する哲学者。



広瀬 敏通 (ひろせ としみち)

1950年東京都に生まれる。20代に長期にわたってアジア各地で個人NGOとして活躍。帰国後の1982年にホールアース自然学校開設、代表となる。個人としても自給自足生活の実践や中小家畜の飼育の伝道者であるかわら、火山洞窟、熱気球、辺境の探検などで多くの記録・実績を持ち、冒険好きな子どもたちの育成に尽くした。富士山、沖縄、新潟、岡山、神戸など国内各地の拠点校で職員40名、年間8万人の参加者を擁する。日本の自然学校の草分けとして、国内海外の多くの地で自然学校の仕組み作りに関わり、人材育成、地域づくりに尽力する。中央環境審議会専門委員、(社)日本環境教育フォーラム運営委員理事、日本エコツーリズムセンター代表理事、など。



海老澤 衷 (えびさわ ただし)

1948年東京都に生まれる。早稲田大学第一文学部卒業後、大学院文学研究科へ進学。1980年大分県教育庁歴史民俗資料館設立準備室研究員。87年早稲田大学文学部専任講師。95年同教授、現在に至る。日本の荘園史研究から出発し、東アジアの水田開発史、村落景観論を多角的に研究。早稲田大学水稲文化研究所代表、『講座水稲文化研究Ⅳ バリ島研究の新たな展開』など刊行。主著『荘園公領制と中世村落』（校倉書房、2001年）

■棚田学会■

本学会は、文系、理系の研究者、農業者、一般市民、行政職員、学生など、様々な分野の人々が棚田について研究し、楽しみ、棚田保全を考え合っている学際的な面白い集まりです。棚田にかかわる人、棚田に興味ある人、棚田を大切に思う人、棚田を楽しみたい人歓迎します。ぜひ棚田学会にご参加下さい。

■入会方法■

名前、フリガナ、所属、住所（自宅又は、勤務先）自宅電話番号、勤務先電話番号、会員の種類（普通会员・賛助会員・学生会員）と何年度入会希望かを明記し、郵便振込にてお申し込み下さい。棚田学会の年度始は毎年7月1日です。

年会費 普通会员 4,000円、

賛助会員一口 10,000円～（法人会員は3口以上）、
学生会員 2,000円（学生証コピーを郵送下さい）

お問い合わせ 棚田学会事務局

TEL:042-381-6721 FAX:042-383-8614
〒184-8577 東京都小金井市本町6-5-3（ふるさときゃらばん内）

<http://www.tanadagakkai.com>

郵便振替口座 00150-2-125247 棚田学会

申し込み用紙

シンポジウムに参加します。☐懇親会（会費5000円）にも参加します。
（懇親会参加ご希望の方はレ印を付けて下さい。）

お名前

所属

住所（自宅・勤務先）

TEL

FAX

e:mail

お預かりした個人情報、このシンポジウムのご案内のみに使用します。